介護報酬改定による
訪問看護ステーションにおける
理学療法士等と看護師の訪問
～課題と今後の展望～

◎三浦 祥子 PT 1)　　河野 亜紀 PT 1)　　橘髙 千恵子 PT 1)

1)社会医療法人 社団 沼南会 まり訪問看護ステーション

日本リハビリテーション協会
COI開示

筆頭発表者名：三浦　祥子

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などはありません

広島県福山市

■人口 ……469,952人
(2018年5月31日現在)
■世帯数 ……208,030世帯
(2018年5月31日現在)
■面積 ……518.14㎢
(2015年10月1日現在)
■市の花 ……ばら・キク
■市制施行日 ……1916年7月1日
■福山市の位置 ……瀬戸内の中央に位置し、広島県東南部から岡山県西南部におよぶ備後圏域の中心

3

沼隈病院グループ（沼南会・まり福祉会）

・常石医院
・GHぬまくま

まりホーム熊野

まりデイサービス内海

まりホーム内海

・沼隈病院
・介護老人保健施設ぬまくま

地域密着型特養
まり沼隈

訪問診療
まり訪問看護ステーション
まり訪問介護ステーション

・まり高齢者複合施設　山南
・在宅訪問事業

はじめに

- 平成30年度介護報酬改定により、訪問看護ステーションにおける理学療法士等（以下PT等）による訪問が見直された

訪問看護ステーションにおける理学療法士等による訪問の見直し

- 訪問看護計画書及び訪問看護報告書の作成にあたり、訪問看護サービスの利用開始時や利用者の状態の変化等に合わせた定期的な看護師による訪問により、利用者の状態について適切に評価を行うとともに、理学療法士による訪問看護はその訪問が看護業務の一環としてのリハビリテーションを中心としたものである場合に、看護師の変わりにさせる訪問であること等を利用者等に説明し、同意を得ることとする。

厚生労働省HPより抜粋

- 当事業所でも、平成30年4月より訪問看護Ⅰ5のみの利用者へも看護師の定期訪問が開始となった

⇩

- 看護師の定期訪問3回目が終了し、現状の訪問の方法で良いのか？
- 利用者・家族や看護師、PT等がどのような思いを持っているのか？

活動内容 1

看護師

- 3ヶ月に1回利用者宅へ訪問
- 1日3～7件、月平均30～40件を訪問
- 1件あたりの滞在時間・・15分～30分程度
- 初回訪問時に写真付の名刺を渡す
- 3ヶ月に1回の訪問のため、利用者に許可をもらい、了承を得た方のみ顔写真を撮らせてもらう

活動内容２
訪問時の聴取・評価内容

看護師

- 看護師の視点からリハビリのニーズを把握する
- 心身の健康管理や療養支援を行う

  排泄や飲食・内服薬などの確認と注意点、全身状態悪化の予防など

アンケートの対象と方法

【アンケートの対象】
①訪問看護Ⅰ5のみ利用している136名
②PT等9名
③定期訪問を行う看護師2名

【アンケートの内容】
看護師の訪問開始後、良かった点・今後望むことを口頭でアンケート調査を行った
集計期間はH30年12月3日～15日

※対象者には、調査研究に向けた、情報利用に関する説明を行い、同意を得た

アンケート結果

- 回答が得られた人数

訪問看護Ⅰ5のみ 利用している利用者・家族	92名／136名 （ 67% ）
PT等	9名／9名
定期訪問を行う看護師	2名／2名

アンケート結果

訪問看護Ⅰ5のみ利用している利用者・家族の回答

- 薬について詳しく教えてくれた
- 排泄について（尿器の使用など）アドバイスをくれた
- 些細なことでも、いろんなアドバイスをくれた
- リハビリと看護師、両方からアドバイスがもらえるので良かった
- 相談相手が増えた

- 看護師は来なくても良い。わからない

アンケート結果
PT等9名からの回答

- 全身状態の把握ができる
- 利用者の些細な体調の変化に気づいて、対応してくれた
- 皮膚の状態や内服、受診のタイミングなどについてアドバイスをくれた

- 3ヶ月に1回の訪問なので、利用者・家族と信頼関係が得られにくい

アンケート結果
定期訪問を行う看護師2名からの回答

- 急変時の応急処置や内服の副作用に関することなど、家庭環境に合わせて指導ができる
- 看護師とリハビリが介入することで、不安な事や困っている事が軽減できる

- 3ヶ月に1回の訪問の為、信頼関係を築く事が難しい
- 看護師が訪問する制度についての理解が不十分で、コミュニケーションが取りにくい

アンケート結果まとめ

- 3者ともに、看護師の医療的ケアまでは必要ないが、日常の些細な疑問や体調変化に対し、専門的な意見を聞く機会を必要としている
- 看護師が訪問する制度についての理解が不十分、訪問間隔が3ヶ月に1回であるため、利用者・看護師間の信頼関係構築が難しい

考察

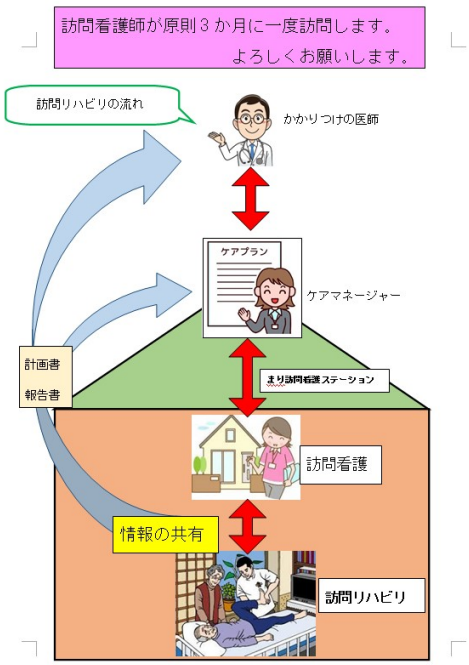
- 現時点で疾病に対する不安が少ないことや看護師と接する機会（通所系サービス等）があると、必要性を感じにくいのではないか
- 看護師も介入することで、フレイル状態の利用者の全身状態の悪化を早期に予防できるのではないか

アンケート後の取り組み１

- フレイル状態の利用者に対しても、看護師・PT等、ともに両者の視点からの評価やアドバイスを取り入れるようにした

アンケート後の取り組み２

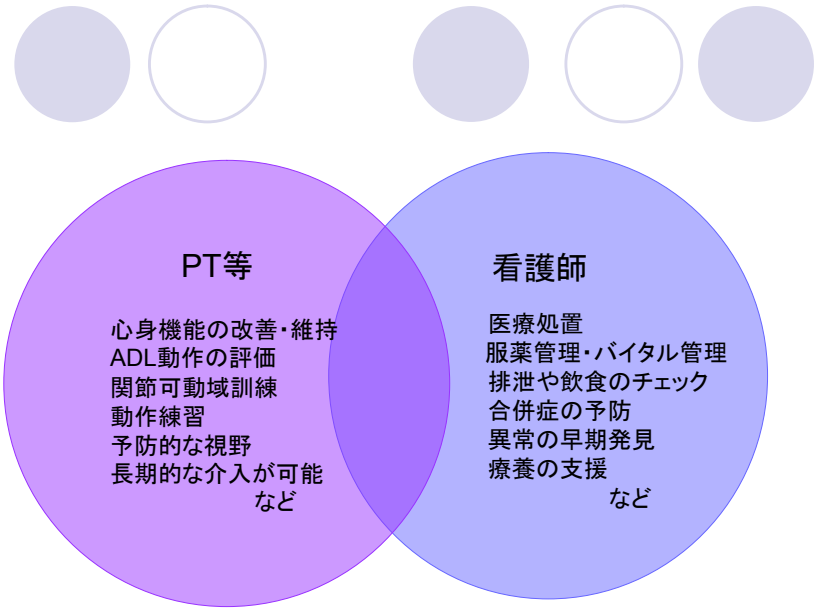
- 初回訪問時に訪問看護ステーションの活動の流れについての書類を渡し、説明を行う
- 理解が得られにくい利用者に対しては、リハビリ訪問日に定期訪問を実施する



今後の課題と展望

- フレイル状態の利用者にもPT等と看護師が介入することで、早期より、幅広い視点から介入できるようになる

- 利用者が健康で安全に在宅生活を長く続ける事が出来るのではないのか



- 互いの専門性を理解し、尊重し合い、連携を深めていき、チームケアの重要性を探求していきたい
- 利用者が身体状況について理解できるように、PT等と看護師が働きかけていく
- ケアマネージャーなど他職種に、訪問看護ステーションでの看護師・PT等の役割や業務について、理解を深めてもらえるように努力する